

横河電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比4.7%増の26億8,000万円、営業利益は7.7%増の2億6,300万円、純利益は9.9%増の2億4,500万円、受注高は9.3%増の29億1,000万円となっている。

アズビルは、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比5.6%増の13億9,200万円、営業利益は12.8%増の1億4,400万円、純利益は8.3%増の1億4,400万円、受注高は4.4%増の10億9,000万円となっている。

オムロンは、2025年3月期第4四半期決算を発表し、売上高は前年同期比6.5%増の37億4,600万円、営業利益は6.9%増の4億6,300万円、純利益は6.9%増の4億6,300万円、受注高は1.0%増の37億4,600万円となっている。

サンワテックは、2025年3月期の第4四半期決算を発表し、売上高は前年同期比21.9%増の69億4,600万円、営業利益は16億5,000円、純利益は12億7,000円、受注高は1.0%増の70億0,000円となっている。

三菱電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比1.1%増の40億2,000万円、営業利益は25.8%増の3億0,000円、純利益は25.8%増の3億0,000円、受注高は3.8%増の40億2,000円となっている。

東芝インフラシステムズは、2025年4月に統合を発表し、東芝インフラシステムズと東芝システムサービスを統合し、東芝インフラシステムズを再編する。統合後、東芝インフラシステムズは東芝グループのデジタル・インフラ事業を推進する。統合は2025年1月1日付で実施される。

三菱電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比1.1%増の40億2,000万円、営業利益は25.8%増の3億0,000円、純利益は25.8%増の3億0,000円、受注高は3.8%増の40億2,000円となっている。

東芝インフラシステムズは、2025年4月に統合を発表し、東芝インフラシステムズと東芝システムサービスを統合し、東芝インフラシステムズを再編する。統合後、東芝インフラシステムズは東芝グループのデジタル・インフラ事業を推進する。統合は2025年1月1日付で実施される。

三菱電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比1.1%増の40億2,000万円、営業利益は25.8%増の3億0,000円、純利益は25.8%増の3億0,000円、受注高は3.8%増の40億2,000円となっている。

25年3月期上期決算

横河電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比4.7%増の26億8,000万円、営業利益は7.7%増の2億6,300万円、純利益は9.9%増の2億4,500万円、受注高は9.3%増の29億1,000万円となっている。

アズビルは、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比5.6%増の13億9,200万円、営業利益は12.8%増の1億4,400万円、純利益は8.3%増の1億4,400万円、受注高は4.4%増の10億9,000万円となっている。

オムロンは、2025年3月期第4四半期決算を発表し、売上高は前年同期比6.5%増の37億4,600万円、営業利益は6.9%増の4億6,300万円、純利益は6.9%増の4億6,300万円、受注高は1.0%増の37億4,600万円となっている。

サンワテックは、2025年3月期の第4四半期決算を発表し、売上高は前年同期比21.9%増の69億4,600万円、営業利益は16億5,000円、純利益は12億7,000円、受注高は1.0%増の70億0,000円となっている。

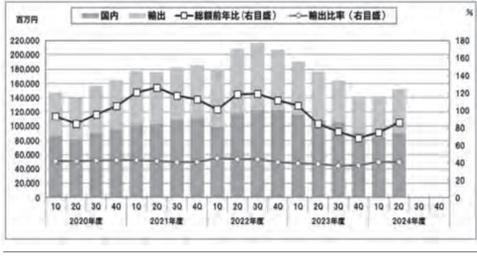
三菱電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比1.1%増の40億2,000万円、営業利益は25.8%増の3億0,000円、純利益は25.8%増の3億0,000円、受注高は3.8%増の40億2,000円となっている。

東芝インフラシステムズは、2025年4月に統合を発表し、東芝インフラシステムズと東芝システムサービスを統合し、東芝インフラシステムズを再編する。統合後、東芝インフラシステムズは東芝グループのデジタル・インフラ事業を推進する。統合は2025年1月1日付で実施される。

三菱電機は、2025年3月期第2四半期決算を発表し、売上高は前年同期比1.1%増の40億2,000万円、営業利益は25.8%増の3億0,000円、純利益は25.8%増の3億0,000円、受注高は3.8%増の40億2,000円となっている。

東芝インフラシステムズは、2025年4月に統合を発表し、東芝インフラシステムズと東芝システムサービスを統合し、東芝インフラシステムズを再編する。統合後、東芝インフラシステムズは東芝グループのデジタル・インフラ事業を推進する。統合は2025年1月1日付で実施される。

NECA、2024年度第2四半期 出荷統計



NECA(日本電気制御機器工業会)は、2024年度第2四半期の出荷統計を発表し、出荷総額は前年同期比13.9%減の153億0,000円となった。一方、前年同期比では101.4億円の17.2%増となり、2期連続で100%を超えた。また、制御用PLC、制御用モーター、制御用電源装置の5大品目全てで前年同期比100%を超え、市況の回復傾向が鮮明になっている。

「向殿安全賞」表彰式 団体3社、個人5人に授与

「第9回向殿安全賞」の表彰式が11月14日(金)に、大阪府で行われた。今回は団体(企業)の部で3社、個人の部で5人が表彰された。受賞者は以下の通り。団体(企業)の部: 三菱電機(安全対策推進課)、東芝インフラシステムズ(安全対策推進課)、三菱電機(安全対策推進課)。個人の部: 三菱電機(安全対策推進課)、東芝インフラシステムズ(安全対策推進課)、三菱電機(安全対策推進課)。

業界の変革を目指す 制御盤DXアライアンス設立

東芝は、2025年4月1日付で社会インフラ事業を担う東芝インフラシステムズと東芝システムサービスを統合し、東芝インフラシステムズを再編する。統合後、東芝インフラシステムズは東芝グループのデジタル・インフラ事業を推進する。統合は2025年1月1日付で実施される。

市況回復傾向が鮮明に 5大品目前期比100%超

NECA(日本電気制御機器工業会)は、2024年度第2四半期の出荷統計を発表し、出荷総額は前年同期比13.9%減の153億0,000円となった。一方、前年同期比では101.4億円の17.2%増となり、2期連続で100%を超えた。また、制御用PLC、制御用モーター、制御用電源装置の5大品目全てで前年同期比100%を超え、市況の回復傾向が鮮明になっている。

東芝インフラシステムズ 来年4月に統合

東芝は、2025年4月1日付で社会インフラ事業を担う東芝インフラシステムズと東芝システムサービスを統合し、東芝インフラシステムズを再編する。統合後、東芝インフラシステムズは東芝グループのデジタル・インフラ事業を推進する。統合は2025年1月1日付で実施される。

azbil あすみる、アズビル。オートメーションで未来を描く。アズビル株式会社

変わる市場と変わる会社、働く人はどうする？ 覚悟を決めろ。DX・ITを推進へ。三菱電機

灯台。いま日本は大きな転機を迎えている。と言っても、コロナ禍の際も同じようなことを言っていたのに、変化が来るといっていいのは間違いない。状況の流動性は増した。どう動いていくかは未知数だが、新しい動きが生まれる際も出てくる。膠着状態のよほど良いFA業界もQが終わり、大きな組織変更など、刺激的なニュースが多い。今週取り上げただけでも、三菱電機はDX推進に向けてデジタル関連の子会社を統合、東芝も東芝インフラシステムズを統合、さらには富士通も富士通エレクトロニクスと富士通システムサービスを統合する。また、船井電機は富士通エレクトロニクスと富士通システムサービスを統合する。また、船井電機は富士通エレクトロニクスと富士通システムサービスを統合する。

Power Reliability 安心24ソリューション DC電源安定供給! PHOENIX CONTACT. SPД 電力計測, スイッチング電源, UPS, 電子式サーキットブレーカ. DINレール用電源エントリーモデル ESSENTIAL2 Powerをクイントマンが4コマ漫画で紹介! フェニックス・コンタクト株式会社

電気設計から製造までデータがつながる

Efficient Engineering is when a PLAN becomes EPLAN.

制御盤製造の最適化ソリューション

https://www.rittal.com/jp-ja/ e-mail: contact@rittal.co.jp

リタール株式会社

Empowering the All Electric Society

PHOENIX CONTACT

フエニックス・コンタクト株式会社
www.phoenixcontact.co.jp

Fukunishi

福西電機株式会社

本社 大阪市北区与力町7番5号
コーポレートサイト https://www.fukunishi.com

Empower Connections

つながりに力を

液体中の摩耗粒測定

東陽テクニカ 油中粒子計測器

東陽テクニカは、レーザー光法によって液体中の粒子を高精度に測定できる油中粒子計測器「PI1000」を発売し

PI1000

車両や発電機、工作機械や産業用ロボットなどに搭載されるエンジンやモーター、駆動系はさまざまな箇所に潤滑油がまじり、稼働中は部材同士がこすれながら滑り合うため、摩耗が発生し、摩耗による細かい粒子(摩耗粉)が潤滑油中に混じり、混じった粒子の大きさを測定・分析することで、機械や部品の劣化

状態が分かり、故障の予知も可能になる。同製品はそれを実現する計測器で、液体にレーザーを照射し、散光によって粒子の大きさを計測し、振動や熱、濁りなどの外的要因に左右されずに正確な粒子の計測が可能。さらに独自の脱泡技術により、泡による誤検知を防止し、制御部にはAIを駆使したFICを内蔵し、高精度の計測を実現している。

また本体は小型ポンプを内蔵し、給油・排油を自動化し、排油を計測対象機器に戻して再利用もできるため、人が補給する必要もなく、無入での計測・メンテナンスが可能となっている。

洋上風力発電のギアボックスの遠隔状態監視と

ファナック ロングリーチ型追加

大型ハンドリングロボット

ファナックは、大型ハンドリングロボット「M1000」に、ロングリーチタイプの「M1000/550」を追加した。F46Aを発売した。自動車産業ではモーターや部品を使った大型部品を搬送する必要がある。このロボットは、一般的な大型ハンドリングロボットで採用される並行リンク機構(いわゆる、シリンドリカル機構)を採用し、アルミ合金を基本としたボディを採用し、軸に採用したボールベアリングは、同社の最大径のロボットで採用している。また、最大径のロボットで採用している。また、最大径のロボットで採用している。

直上方向や後方のアークセグが容易にあり、ロボット旋回時はコンパクトから遠く離れた巨大ワークでも対応可能となっている。

制御装置は新型のR50iAシリーズに対応している。

3Dプリンターを1人1台の時代に

Aswitch 株式会社

高電圧・広帯域を計測

横河計測 差動パワエレ開発を支援

横河計測は、最大入力電圧2000V、周波数帯域400MHzの差動プローブ「PBDH0400」シリーズを発売している。PBDH0400シリーズは、近接型シリコンカーバイド(SiC)を活用する次世代パワーデバイスが必要とされる。高電圧・高速信号が計測可能な高周波数帯域の差動プローブ。電気自動車や再生可能エネルギー用途で求められる000V以上の高電圧・広い周

波数帯域での計測に対応し、高速に変化する信号の正確な波形観測が可能。優れた耐ノイズ特性を持ち、波形のオーバースhootを抑えることができる。

また、高電圧・高速信号が計測可能な高周波数帯域の差動プローブ。電気自動車や再生可能エネルギー用途で求められる000V以上の高電圧・広い周

ランサムウェア対策搭載

コンテック 組み込み用PC

コンテックは、組み込み用コンピュータ「ボックス」シリーズの「Intei Atom」シリーズに、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

バックバッテリーレスで運用

ATEN NFC対応電子ペーパー

ATENは、バックバッテリーレスで運用可能な電子ペーパー「E-Paper」シリーズを発売した。E-Paperは、バックバッテリーレスで運用可能な電子ペーパー。また、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

バックバッテリーレスで運用可能な電子ペーパー。また、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

業界初 可搬重量1トン

EVバッテリー 組み付け作業に最適

安川電機は、1トンの可搬重量を持つスカラロボット「MOTOMAN-ME1000」を発売した。電動自動車(EV)の床面に取り付けられることが多い大容量バッテリーの組み付けに対応し、低床面にもアクセスできる構造になっている。

EVのバッテリーは年々大容量化し、重量も500kgを超え、増加傾向にある。EVバッテリーは車体床面に搭載するが一般的に、組み付けには搬送位置決めが難しい。MOTOMAN-ME1000は、大容量化による重量の増加に対応し、かつ水平方向の稼働を得ることで、車体床面に近い狭い範囲を広い可搬範囲でカバーすることが可能。

また、高電圧・高速信号が計測可能な高周波数帯域の差動プローブ。電気自動車や再生可能エネルギー用途で求められる000V以上の高電圧・広い周

データセンター特化

サーバー給電用バスダクト

シユナイターエレクトリックは、データセンター向けに特化したサーバー給電用バスダクト「LINE Track Busway」シリーズを発売した。LINE Track Buswayは、データセンター向けに特化したサーバー給電用バスダクト。また、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

データセンター向けに特化したサーバー給電用バスダクト。また、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

大電流

1バーラックのレイアウトに合わせた等間隔・均一な設計が求められるデータセンターの設計

同製品は、データセンター向けのバスに特化して開発したバスダクト。従来のバスダクトでは位置が固定されていたが、フレキシブルな設計が可能。また、プラグインユニット差込み口を、レール状の幹線導体(トラックバス)に任意柔軟に取り付けられるように設計されている。また、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

大電流1バーラックのレイアウトに合わせた等間隔・均一な設計が求められるデータセンターの設計。同製品は、データセンター向けのバスに特化して開発したバスダクト。従来のバスダクトでは位置が固定されていたが、フレキシブルな設計が可能。また、プラグインユニット差込み口を、レール状の幹線導体(トラックバス)に任意柔軟に取り付けられるように設計されている。また、ランサムウェア対策機能を搭載した。ランサムウェア対策機能は、ランサムウェアが感染した際、自動的にデータをバックアップし、ランサムウェアの動作を停止させる。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。また、ランサムウェアの感染を検出した際、自動的に管理者に通知する。

EWON® WEBセミナー

BY HMS NETWORKS

12月4日(水) 16:00-16:45

「Ewon製品を使いこなす」

- ・パソコン以外の端末からも使いたい方
- ・Cosy+の上位機種Flexyについて知りたい方
- ・メール発報システムを検討している方

Ewon産業用リモート接続ソリューションで機械を遠隔地から安全にサポート。

HMS II

HMSインダストリアルネットワークス株式会社 〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-3 新横浜 KSビル6F TEL: 045-478-5340



見込顧客の創出
BtoB企業専門のマーケティング支援
株式会社メイテンス

Electronics Solutions Company
KANADEN
株式会社 カナデン

生産設備の予知保全をIoTで効率化
https://lp.sukkha.net/
info@sukkha.net
SUKKHA

この技術が、世界を変える。
この技術で、未来を変える。
change the world, for the future.
HOKUYO
https://www.hokuyo-autom.co.jp/

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機と三菱電機ビルソリューションズ、ロボフレ環境構築支援事業に参画

三菱電機と、三菱電機ビルソリューションズは、経済産業省が推進する「ロボットフレンドリーな環境構築支援事業」に関連した研究開発プロジェクトとして、通路や交差点などでのロボット同士の衝突や対面膠着を防止、さまざまなロボットが建物内を円滑に稼働するための群管理方式の妥当性に関する検証を目的とした「リソース管理システムによる複数ロボットの群管理標準化に関する研究」に参画する。

■三菱電機、UI開発の効率化と品質向上を実現する「Serendie Design System」を提供開始

三菱電機は、同社独自のデジタル基盤「Serendie(セレンディ)」について、UI開発の効率化と品質向上を実現するデザインシステム「Serendie Design System」を構築し、Webサイトで無償提供を開始する。同システムは、同社の多様な事業領域で培われた知見を集約し、再利用可能で豊富な数のデザインパーツを有する事業領域を横断したデザインシステム。豊富なデザインパーツやデザインツール「Figma」とフロントエンドフレームワーク「React」の連携によるスムーズなワークフローを社内外に提供する。

■シーシーエス、アプリケーション事例「X線透過検査」公開

シーシーエスは、アプリケーション事例「X線透過検査」を公開した。X線透過検査は、X線は、可視光・紫外光・赤外光にはないアルミをはじめとする一部金属や、樹脂、木材などの材質を透過する特性を持っているため、包装、外殻を透過して内部内容物を検出することが可能。アルミ包装のかみ込み検査や食品の形状検査(割れ・かけ)、お菓子の個数検査、食品の重量検査などに有効活用できる。

■富士電機、株式交換で総合設備会社の富士古河E&Cを完全子会社化

富士電機は、株式交換により富士古河E&Cを完全子会社化する。効力発生日は2025年2月3日を予定。それに先立って富士古河E&Cは2025年1月30日にスタンダード市場の上場廃止となる予定。

未来のための「E」。
イーサネットの
METZ CONNECT
We realize ideas
国内販売輸入総代理店
Rinsconnect 株式会社リンスコネクト

富士古河E&Cは、1923年に大型船の機装電気工事、製紙機械の輸入と修理、羅紗の輸入を祖業として

設立し、以降は電気工事の請負を事業主体として展開してきた。1996年に富士電機工事として東証2部に上場し、2009年10月に古河総合設備と富士電機総設と合併し、富士電機E&Cとなった。同社は富士電機グループにおける唯一の総合設備企業として、グループ各社から各種設備工事を受注しつつ、中長期的な環境変化に対応するため、新たなエンドマーケットの獲得や海外および成長市場へのリソース投入に取り組んでいる。

■富士電機、開発ストーリーに水素とアンモニアの計測機器の開発チームインタビュー公開

富士電機は、開発ストーリーに、水素とアンモニアの計測機器の開発チームインタビュー「次世代エネルギー 水素・アンモニア普及へ 異領域の技術でブレークスルーしたセンシング技術」を公開した。カーボンニュートラルの実現に向け、化石燃料に替わる新しいエネルギーとして水素やアンモニアが注目されているが、水素は可燃性、アンモニアには毒性があり、取り扱いには注意を要する。同社は、これら2つの次世代エネルギーを安全に利活用するために、素早く正確に濃度や流量を計測(センシング)する技術、計測機器の開発を進めており、その開発チームの4人に話を聞いている。

■安川電機、テクニカルレポート2024第6号「重量物搬送に対応したスカラロボット」公開

安川電機は、テクニカルレポート2024第6号「重量物搬送に対応した省エネ・軽量・省スペース スカラロボットMOTOMAN-ME1000の提案〜ROBOT TECHNOLOGY JAPAN2024出展より〜」を公開した。

自動車バッテリーの重量も大きくなるにつれ、これを搬送する生産工程の装置の大型化が消費エネルギーの増大や設置スペースの拡大につながっている。レポートでは、ロボットテクノロジー・ジャパンの搬送デモで使用した、重量物搬送用に特化した、「省エネ」・「軽量」・「省スペース」を特長とするMOTOMAN-ME1000について紹介。他社に先駆けて開発した、業界初となる重量搬送が可能(可搬質量1トンの)スカラ構造のロボットとなっている。

■アズビル、2024年度計測自動制御学会「技術賞」と「新製品開発賞」を受賞

アズビルは、2024年度計測自動制御学会(SICE)「技術賞」1件と「新製品開発賞」3件を受賞した。技術賞を受賞したのは「小型プログラマブルジョセフソン電圧標準装置(小型PJVS装置)の導入について」。小型PJVS装置を国内民間企業で初めて社内一次標準として稼働させることができ、この標準装置により校正することで、これまで社内一次標準として使用していたツェナー標準電圧発生器の校正の高精度化を達成し、同発生器による計測器の校正の精度を高めたことが評価された。

新製品開発賞は、「ダイヤモンドリスボン・モニタ SORTiA-Demand Response」、「マスフローコントローラ形F4Q」、「セル型空調システム「ネクスフォー

トDD」が受賞した。

■IDEC、IDEC S&C社の全株式を東京ガスエンジニアリングソリューションズへ譲渡

IDECは、連結子会社でエネルギーマネジメントソリューションを提供するIDECシステムズ&コントロールズ(IDEC S&C社)の全株式を、東京ガス100%子会社の東京ガスエンジニアリングソリューションズ(TGES社)に譲渡することを決定した。IDEC S&C社は、2012年に特定建設業免許を取得して以来、メガソーラーのワンストップソリューション(発電所の用地取得、システム設計、最適ハードの選定、調達、施工、各種申請、保守・メンテナンス)や創エネ、蓄エネを実現するためのエネルギーマネジメントを提案してきたが、再生可能エネルギーに関する市場規模の拡大に伴い、競争環境が厳しくなる中で、同社の成長には、TGES社の傘下に加わった方が有効であると判断した。譲渡契約締結日は2024年11月1日。株式譲渡予定日は2025年3月31日となっている。

■日立産機システム、製造受託・環境関連事業のグループ会社を再編 新会社設立

日立産機システムは、同社製品の製造受託・環境関連事業を行っているグループ会社の日立産機ドライブ・ソリューションズと日立産機中条エンジニアリングの2社を合併し、2025年4月1日に新会社「日立産機グリーンテック(仮称)」を新設する。両社はいずれも日本国内でモータ、インバータやエシャワールなどの製造受託のほか、職場環境における有害物質の測定・分析や、設備改善工事などの環境関連事業を行っており、事業に強い親和性を持つ。両社の生産技術・工程管理等のノウハウ共有によるモノづくりの強化や環境ビジネスの拡大に向けて合併を決定した。

■THK、次世代リニア搬送システムのWebサイトを公開

THKは、次世代リニア搬送システムのWebサイト(日本語/英語/韓国語版)を公開した。次世代リニア搬送システムは、変種変量生産に貢献するフレキシブルな高速搬送システム。モジュールをコンセプトとし、各モジュールの組み合わせにより搬送システムを構築できる。駆動にはリニアモータを採用し、高速・高加減速で自在な搬送を実現する。高剛性なLMガイドを搭載し、搬送ライン上で荷重を受けることも可能。WEBサイトでは、これらの特長を分かりやすく伝えるため、コンセプト動画や従来の搬送が抱える課題への解決策などの情報を掲載している。

■EtherCAT Technology Group、10月23・24日に「EtherCAT Plug Fest日本」を開催

EtherCAT Technology Group(イーサキャットテクノロジーグループ、ETG)は、10月23・24日に横

浜で「EtherCAT Plug Fest日本」を開催した。イベントでは、参加したデバイスメーカーがEtherCAT Mainデバイス9製品とSubデバイス10製品の相互運用性をテスト。各製品の互換性向上を目指し、実際の現場で使用するための知識を共有した。今回は4社の初参加があった。

イベントセミナー

■三菱電機、12月3日オンラインセミナー「MATLAB/Simulink×GX Works3でプログラムの開発コスト削減と高度化を実現！」

三菱電機は、12月3日オンラインセミナー「MATLAB/Simulink×GX Works3でプログラムの開発コスト削減と高度化を実現！」を開催する。今回はMathWorks社と合同で開催したSimulink PLC CorderとGX Works3の連携によるプログラム自動生成機能をはじめ、近年注目を集めるモデルベース開発などエンジニアリングコスト削減に貢献するソリューションを紹介。さらに実際にSimulink PLC CorderとGX Works3を使用したデモも実施する。

■北陽電機、オンデマンドセミナー「セーフティコントローラ HSC-A100-ENC」公開

北陽電機は、オンデマンドセミナー「セーフティコントローラ HSC-A100-ENC解説セミナー」を公開した。セミナーでは、セーフティコントローラとは、またAGV/AMRの新規格に対応した機能について説明している。

■ロックウェルオートメーション、11月26日東京、12月12日大阪に自動車業界向けDXセミナー開催

ロックウェルオートメーションは、11月26日に東京・赤坂インターシティコンファレンス404、12月12日に大阪・グランフロント大阪北館タワーB10階で、「自動車業界向けデジタルトランスフォーメーション(DX)セミナー」を開催する。セミナーでは、圧倒的な競争優位をもたらすスマートマニュファクチャリングを実現するためのデジタルトランスフォーメーション(DX)に関する実践的な考え方と手法を提案し、企業の未来を切り開くため次世代のDX戦略について考える。

■CC-Link協会、12月6日 広島でリアルセミナー「CC-Link IE TSNユーザーセミナー」開催

CC-Link協会は、12月6日に広島市の三菱電機中国支社でリアルセミナー「CC-Link IE TSNユーザーセミナー」を開催する。セミナーではCC-Link IE TSNの特長・採用メリットをはじめ、パートナーによる製品紹介を行う。展示フェアで対応製品の動作デモや製品について相談もできる。

ボッシュ レックスロスの標準コンベア

TS 2plus (パレット式コンベア)



コンベア上で 240kg までのアキュムレーションが可能
高い停止位置精度(±0.05mm)
パレット上での組み立て作業を可能とする高耐荷重

カタログ品のラインナップはこちらより→



製品に関するお問い合わせ先:045-605-3028

VarioFlow plus (プラスチックチェーンコンベア)



自社製オリジナルコンベア
20年以上に渡る経験と実績
グローバルな供給網

ボッシュ・レックスロス株式会社
弊社はボッシュグループの産業機器テクノロジーを担っています。

rexroth
A Bosch Company

FAトップインタビュー

PC制御への関心の高まり 転換期を迎えるIPC・コントローラ市場

WAGOのコントローラ新戦略

FAにとどまらず、社会のあらゆるシーンで自動化のニーズが高まる中、ワゴジャパンも産業用PC (IPC) やコントローラの提案を強化している。特にLinuxベースのOSにソフトPLCとしてCODESYSを搭載したコントローラは、特価キャンペーンで予定台数が売り切れとなるなど好評を得た。さらに今冬には性能を向上した新製品を発売する予定となっている。そんな同社に、現在のIPCやコントローラ市場の状況と、同社の取り組みについて、ワゴジャパン PMオートメーション/インターフェースプロダクトマネージメントコントローラアシスタントマネージャーの東条弘氏に聞いた。



ワゴジャパン

PMオートメーション/インターフェース
プロダクトマネージメントコントローラアシスタントマネージャー
東条 弘氏

インダストリー4.0の世界が現実になり始めた

— IPCを含めた最近のコントローラ市場についての印象は？

— 昔前に比べていたインダストリー4.0で描かれた構図がようやく実現してきたという印象です。現場レベルのフィールド層にPLCやリモートI/Oがあり、エッジ層にハイエンドのエッジコントローラがあり、上位のIT層にサーバーやクラウドがあるという形。以前は夢物語であり、ここまでやる人や企業があるのかという印象でしたが、この5年くらいで具体的な話になってきていると感じています。

— その要因は？

データを収集して分析するというのがキーワードになり、PLCやコントローラに大量のデータを扱うための高性能なパフォーマンスが求められるようになってきています。

以前は、フィールド層にあるPLCの機能に対しての要望が多かったのが、今はエッジも含めて、集めたデータのファイルを送りたいとか、PLCプラスアルファ、制御以外の部分に対する要求が増えてきています。だからPLCとは別にIPCを置いて情報系の機能を補完していたりするのだと思います。

IPCを使った新しい制御がトレンドに

— IPCの勢いが増えています。

確かに今IPCを使った制御や計測に取り組んでいるところも増えていて、特定の業界においては、PLCが担っていた制御部分を性能の良いハイエンドのコンピュータにまともしようという動きは以前からあるようです。PLCレスや現場に制御盤を置かずクラウドにまとも、コントローラはIPCで行うような形を模索する動きもあり、IPCの勢いがあるのは確かだと思います。

だからといってIPCがPLCに置き換わるという時代が本格的に来たとは思っていません。今IPCでいろいろとやっている方々は、IPCでできること、ここまでなら大丈夫という見極めを行っている段階だと思います。

汎用機器のIPCと、制御に特化した専用機器のPLCの間には、CPUや処理性能といったスペックだけではなく、瞬断への対策やIOの拡張性という違いもあります。そのためそれぞれに得意な領域や使われる世界、ニーズは少し違っていて、将来的にもPLCがなくなることはなく、用途や場所によってIPCと使い分けられていくのだと思います。

SDGsをきっかけに 世界規模でIoTやデータ活用が本格化

— こうした変化のきっかけは何だったのでしょうか。

要因はいろいろありますが、データ活用やIPCの導入を加速させたのは世界的なSDGs、カーボンニュートラルの動きが大きいと思います。

よく「IoTを導入してデータを活用することで装置の稼働率を上げて生産性を高めよう」といわれますが、これはユーザー企業にとって「義務」ではありません。しかも、既にユーザー企業は何十年も改善を積み重ねてきており、絞り切った雑巾をさらに絞るようなものです。絞り切るところまでやっただとしても、売上げや利益が大きく変わるかと思ったら、そこまで劇的に変わるものでもありません。

一方で、SDGs、カーボンニュートラルは世界中の全ての国々と全ての企業に課された義務であり、ユーザー企業は自社のCO₂排出量について正しいデータを報告しなければならなくなっています。極端な話、電力やガス等は月々の使用料金として電力・ガス会社から請求が来るので、何もしくてもどれだけ自社が使っているかが分かります。CO₂排出量も計算によって導き出すことができます。しかし今まで以上に消費電力を減らし、CO₂排出量を削減しようとしたら、個々の設備からデータを集めてモニタリングをしないとどこから手をつければいいのか分かりません。

さらに世界では、もっと厳密に、調達した部材や販売した自社製品からのCO₂排出量など間接的なCO₂排出量である「スコープ3」の報告が義務化され、ドイツでは既に法令でそうなっています。上場企業だけでなく、非上場企業に対しても義務化されており、当社もデータを公開しています。

日本では大企業に対してのみ適用されるようですが、サプライチェーンに組み込まれている中小企業にもその影響は及ぶ可能性は十分にあります。特に海外企業と取引している企業や、海外向け製品に使われる部材を供給している企業に対しては、取引先から詳細なCO₂排出量データを求められていくかもしれません。

そうした世界的な流れがIPCやコントローラ、IoT市場の動きに大きく影響を与え、それはこの5年ほどで急激に加速したと見ています。

もうひとつユーザーに影響を与えた大きな動きとして「産業用イーサネットの普及拡大」もあります。

当社がコントローラを出し始めた頃の機器間の通信ネットワークは、PROFIBUSやCC-Linkなどのある種の専用ネットワークであるフィールドバスが一般的でした。その後、イーサネットという汎用的なネットワーク技術を土台にしたPROFINETやCC-Link IE、EtherCATなど産業用ネットワークが出てきて潮目が変わってきた印象があります。

専用の技術から汎用の技術に応用した新しい技術が出てきて市場が拡大し、さらに関連する市場にも影響を与えて変化を加速していったと見ています。

WAGOの取り組み CC100のスターターキットが完売

— 御社の取り組みは、当社でも産業用PCとコントローラを取り扱って

ますが、最近PC制御に対して関心の高さに驚いています。

昨年秋に小型コントローラ「CC100」のスターターキットが100台限定で安く買えるというキャンペーンをやったところ、応募が殺到しすぐに売り切れしてしまいました。好評だったため今年6月に再販を行ったのですが、これもほぼ売り切れ。当初、社内では売り切るのは無理だろうという声があったのですが、良い意味で予想が裏切られました。初めは購入できるのは法人のみに限っていましたが、個人からの問い合わせも多く、急ぎ個人向けの販売も始めました。購入者向けの使い方セミナーも好評で、多くの方に参加いただきました。

— どの方が購入されていたのですか？

あくまで私見ですが、趣味と仕事で半々くらい。展示会や後追いでフォローした時には「買ったかったけど売り切れていた。またキャンペーンをやしてほしい」「簡単なモーションシステムを作ってみた」「リアル通信ができるので、ゲートウェイ的な形で使ってみた」という方がいました。一番多かったのは「とにかく倒したい」という声で、熱心な方が多くいることが分かりました。

PC制御としてRaspberry PiとCODESYSの組み合わせも人気ですが、一方でそれだけでは物足りない人は多く、今回のキャンペーンでは、産業用を使ってほしいという潜在的な層を発見できたのかなと思います。Raspberry Piの場合、ソフトウェアライセンスをはじめ、本体以外にも用意しなければいけないものが多く、CC100は全てそろっているのも、便利で、そのあたりも受け入れられたのではないのでしょうか。

PLCのように使える コントローラ新製品「PFC300」

— 関心の高さがうかがえます。

その一方で、具体的に現場への導入を検討していた方からは「想定していた用途にはスペックが足りなかった」という方もいました。

そこで、これから提案を強化していくのが、今冬発売予定の産業用PCとCC100の中間に位置するコントローラ「PFC300」です。

PFC300は、LinuxベースのOSを搭載したコントローラで、従来モデルのPFC200はCPUが32ビットシングルコアでしたが、PFC300では64ビットのデュアルコアを搭載し、処理能力が格段に上がり、より高度な要求にも対応できるようになりました。IOは増設して入出力をつなげることができ、PLCと同じように使うことができます。内部のフラッシュメモリは32GBあり、これまでの4GBから大幅に大きくなりました。



CC100は、オールインワンで1台で何でもでき、安価で手軽に制御を試すのに最適ですが、入出力は8点までで、拡張性がないのに対し、PFC300は、PLCのように拡張してモジュールを増やしていくことができ、さらに上位システムとも連携しやすいというメリットがあります。

WAGOのIPC・コントローラの認知を高めていく

— 今後について。

PLCは今後も制御分野で残り、現場や設備では継続して使用されていくと思います。

一方で、従来のPLC制御をより高性能なPCでの制御に置き換えを検討されている層がいるのも事実です。当社はそうした方々をターゲットにCC100を使った簡単な制御からスタートして、ソフトウェアPLCへのステップアップを提案していきたいと思っています。

最近太陽光発電システムの遠隔監視・制御や鉄道分野、ビルオートメーション分野での制御+監視用途での引き合いが多くなっています。

これ以外にもニーズは多く、WAGOのIPC (エッジコンピュータ) やコントローラの認知度を広げていきます。

また、新製品としてLinuxOSベースの新しいOSであるctrlX OS (コントロールエックス) 搭載のコントローラの発売を予定しています。

ctrlX OSは、データレイヤーという機能を活用し、CODESYSベースのアプリケーションとLinuxアプリケーションのデータ共有を容易に行えるデバイスです。

ctrlX対応機器同士でデータレイヤー上で同期・データ共有することも特長で、新しい概念の機器となります。今後は、ctrlX OSも含めてソフトウェアPLC、PC制御としての知名度を高めていきたいと思っています。

<https://www.wago.co.jp/>



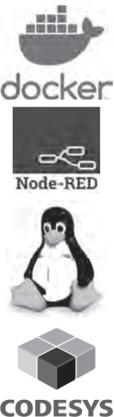
あらゆる制御システムに対応する WAGO コントローラ

ハイスペックコントローラ
PFC300

シンプル & コンパクト
CC100 v2

エッジコンピューティングに最適
Edge Computer

CtrlX OS 搭載
Edge Controller 400



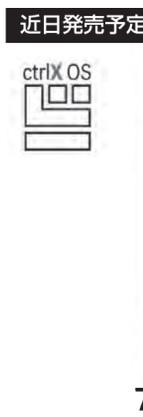
750-8302



751-9402



752-9400 / 9800



752-8400

ワゴジャパン株式会社 www.wago.co.jp



WAGO オートメーション
製品カタログはこちら

